

ティーチング・ステートメント

所属 診療放射線学科

名前 谷川 琢海

作成日 2021年1月29日

更新日 2023年3月22日

【責任】

保健医療学部診療放射線学科において医療情報学を中心とした教育・研究活動を行っている。主たる教育活動は医用画像情報学関連科目（医用画像情報学Ⅰ、医療情報学、医用画像情報学演習）、社会医学関連科目（公衆衛生学、臨床スタートアップ）、その他の科目（フレッシュマンセミナー、放射線技術学演習、診療画像機器学実験、医用工学実験）の授業のほか、ゼミ生に対する臨床実習や卒業研究、就職、国家試験対策の指導、ダート部の顧問、入試広報センター主任等を行っている。

【理念】

医療の情報化が進むなかにおいて様々な課題に対応できる医療人を育成したい。現代の医療は、高度に専門化と情報化が進んでおり、知識や技術を身に着けた医療専門職がそれぞれの役割の業務を担い、連携して職務を遂行している。そのようななか、診療放射線学科で学ぶ学生は、医療、画像、診療機器などに関する多くの知識を修得して、国家試験に臨み、将来的には臨床現場で知識や技術を応用できるようになることが期待される。

学生には膨大な知識や技術を学ぶなかで、効率的かつ効果的に知識を定着させ、ものごとの本質を理解できる人材になってほしい。そのためには、実際の事例に基づきながら、多様な考え方があなかで、課題解決に必要な知識やフレームワークを学べるような授業を行っていききたい。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために、学生が「知識の本質となる概念を理解する」、「基礎知識を定着させる」、「事例から知識を学ぶ」、「多様な考え方があなかを知る」という方針で授業改善の取り組みを行っている。

「知識の本質となる概念を理解する」

- ・ 授業で扱う内容に含まれる概念や背景にあるエピソードを伝えて、学生が知識の本質となる概念をイメージしやすいように授業を行っている。具体的には、日常にある事象や一般生活にあるものを例にした説明や、コンピュータを用いた演習課題を行い、そのあとで専門分野での知識として重要な事項を伝えるようにしている。

「基礎知識を定着させる」

- ・ 授業では冒頭に毎回小テストを行っている。その際、学生自身が作成したノートの持ち込みは可として、レジュメ資料を丸暗記するのではなく、学生自身が知識の整理がするためのノート作りを促している。

「事例から知識を学ぶ」

- ・ 学外の専門家や企業などに講義や演習支援を依頼して、臨床現場での事例や機器の身を学ぶ機会を設け、学生の興味が高まる授業になるように工夫を行っている。

「多様な考え方があなかを知る」

- ・ 休み時間や放課後に学生や関係する教員と積極的にコミュニケーションをとっている。

- グループディスカッションを通して他者の考え方に耳を傾け、そのなかで意見を集約している。

【成果・評価】

- 学生による授業評価アンケートの結果では概ね満足している結果が得られている。
- 国家試験全国模試の担当科目については全国平均以上の得点が取れている。
- 学外の専門家や企業に講義や演習支援を依頼した授業について、学生からの意見は好評な意見が多かった。

【目標】

- 国内（外）の医療分野における問題解決型学習の実践を探して授業に取り入れる。
(2024年3月)
- オンライン授業で得られた知見を活かして、授業での理解度、コメントの聞き取りや知識の定着を確認できるようにする。(2024年3月)